

施策評価表

京 都 府 南 丹 市
作成日：平成22年7月13日

平成22年度(平成21年度実施)

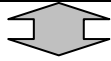
評価施策名	3 多様な担い手のパートナーシップを育てる	施策CD	43	施策主管部	企画管理部	部長名	井上 修男
政策名	第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く			施策関係部			

【施策の概要】

1 南丹市が考える理想(目的)

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
NPO数	団体	21	22	22	27	32	35
達人バンク登録数	人	0	100	0	150	180	200
広報広聴会参加者数	人	761	800	363	850	900	950

○ 市民の参画によるまちづくりを推進する。



1 南丹市の現状(課題)

○ 地方の自主性がますます求められる今後においては、従来の政策決定方法や事業実施手法では、多様性や柔軟性、事業の効率性などで不十分な面がある。

(現状)
 ・住民参加条例の制定 制定済(平成21年度)
 ・人材登録制度(南丹達人バンク)を設置 設置(平成19年度)



2 対策をしなければどうなるのか

○ 市とお互いに公共を担うパートナーという認識を持ってない。
 ○ 共に考え、共に取り組む住民あつての行政という住民自治の本旨から逸脱する。



3 それは何故おきたのか

○ 国の地方分権がすすみ、地方自治体は自らの判断と責任において地域の実情に合った行政を行うことが求められている。
 ○ 住民参加のもと最適なサービス提供を目指し、サービスの公平性、透明性、そして説明責任を果たしながら住民との関係を整理しすすめていく必要がある。



4 それらを解決するために何をするのか

①市民と行政の協働による事業展開を進める。
 ・住民参加条例(仮称)の制定検討
 ・協働を進めるべき事業の推進
 ・各種事業へ地域住民や団体が参画できる工夫の検討
 ・NPOや地域住民が主体となって行う活動への支援
 ・市民主体のまちづくりを支援するための基金の創設
 ・様々なまちづくりに知識や技術を持つ人を登用できる制度の設置
 ②政策判断に資する様々な協議の場へ、市民に参画してもらう。
 ・政策判断に資する各種協議の場に多くの市民が参加できる体制整備
 ・地域や市民の意見や提案を、市全体に活かす仕組みの構築

【施策コスト】(評価対象事業の合計)

単位		H20	H21	H22	H23	H24
決算額(計画額)	千円	718	585	330	1,172	1,172
財源内訳	使用料・手数料	千円	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	718	585	330	1,172
職員従事人数	人・年	1.65	1.55			
人件費	千円	10,666	11,284			
事業費総額	千円	11,384	11,869			

【施策目標の達成に貢献度の高い事業】

全 4 事業

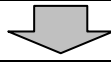
単位:千円

事業名(細事業名)	決算額	うち一般財源	
		うち一般財源	うち人件費
パートナーシップ推進事業(市民協働推進事業)	3,617	3,617	3,093
ふるさと南丹応援寄附金推進事業(ふるさと南丹応援寄附金推進事業)	389	389	384
広聴活動費(広聴活動費)	7,551	7,551	7,496

【前年度の評価】(要約)

【総合評価】
 ①目標の達成状況
 平成20年度よりまちづくり手法検討委員会を設置し、市民協働によるまちづくりの仕組みについて検討をしており、21年度中にまとめをする予定で進めており市民協働の方向性の確立を行い、市民参加条例制定により市民意識の改革が進むと考えられる。
 ②目標値や施策の考え方の見直し
 目標値は、市民参加条例の制定などを契機に目標値の項目が変わってくる事が予想される。広報広聴会の参加についても、参加人数だけの成果でないことが考えられる。

【改善の方向性】
 ①今後の方向性
 「まちづくり手法検討委員会」検討の最中である。今後、この委員会の検討結果や「市民参加条例」制定により市民協働によるまちづくりが進むことを期待し、さらに啓蒙を進めていく必要がある。
 ②各事業の対応
 ・パートナーシップ推進事業
 当面は「まちづくり手法検討委員会」での検討結果を待つ。
 ・ふるさと南丹応援寄附金推進事業
 20年度は趣旨に賛同され17人の寄付採納者があつたが、21年度以降は未知数の部分が多い。
 ・広聴活動費
 昨年度「市政懇談会」を始めて実施した。今年度は10月から11月に実施予定だが、開催方法について検討を要する。



【評価を受けて取り組んだこと】

①「市民と共に担うまちづくり手法検討委員会」より、まちづくり手法の提言書が提出された。それに基づき「南丹市市民参加と協働の推進に関する条例」を制定し施行された。
 ②広聴活動については、市内8箇所市政懇談会を実施し363人の参加があつた。又市職員による出前講座も実施した。



【今年度の評価】

【総合評価】
 ①目標の達成状況
 目標値の項目については、NPO数、達人バンク登録数、広報広聴会の参加者数となっているが、達人バンクについては募集開始が遅れたため、21年度中には登録者がなかつた。また、広聴活動の市政懇談会は、従来の開催方法を変更したため、出席者は363であつた。
 ②目標値や施策の考え方の見直し
 条例制定後の具体的な取り組み方によって目標値の項目が変わってくる事が予想されるので、広聴会については参加人数の多少が成果ではないと考えられる。

【改善の方向性】
 ①今後の方向性
 「南丹市市民参加と協働の推進に関する条例」の施行に伴い、新たなまちづくり支援制度も創設し、「市民参加と協働のまちづくり」を推進していく。
 ②各事業の対応
 ○達人バンク登録については、聖カタリナ高校の協力を得てホームページを創設し、登録が可能にした。今後達人の発掘に努める。
 ○広聴活動については、毎年同様の開催ではなく、手法を検討して成果の上がる方策を検討する。